

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説1500日
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.26

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
http://www.ccrgoto.com/

群馬県のコンベンション施設建設計画

<計画概要>

国際会議が可能な「会議施設」と大規模な見本市が可能な「展示施設」の複合施設

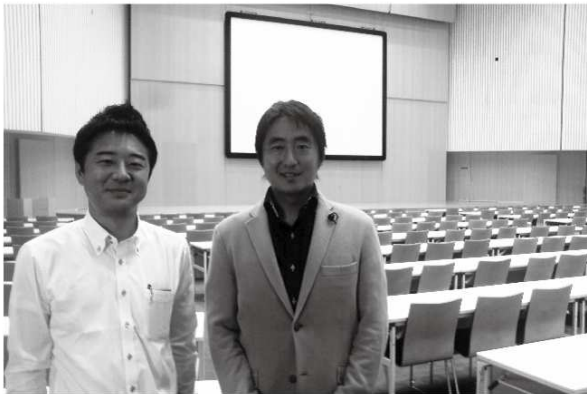
- ① 会議施設 述べ面積 3,400㎡ 述べ収容人数 2,460人
- ② 展示施設 面積 16,000㎡ (さいたまスーパーアリーナ(14,600㎡)より大きい)
- ③ 建設費 280億円(建物のみ。総事業費は未定。)
- ④ 維持管理費 未定
- ⑤ 入場者見込み 年間 107万人、経済効果 202億円
(根拠は全国の類似施設の単純平均。群馬が参考している朱鷺メッセは年間 66万人。)

主な問題点

- ① 大規模な見本市・展示会や国際会議を誘致するとの計画だが、地方の施設で誘致に成功している事例は無い。
- ② 総事業費や維持管理コストも不明で、採算が取れる根拠を県民に示せないまま、「建設する」という方針だけは決まっている(民間感覚では考えられない)。

後藤の対策

金沢市のように既存の公共施設や民間ホテル等を活用して「ハコもの」に頼らず、高崎の「街なか」を味わってもらい、身の丈に合った誘致策を進めるべき。



大淵健・新潟県議の案内により、朱鷺メッセを視察

しかし、県は「見本市・展示会」の需要が厳しいことから、「コンサート」「資格試験」「フリーマーケット」など「多目的」に利用する「目的」自体を修正したのである。つまり、結局は「建設自体が目的」であり、「何のために作るのか」という政策目的は二の次の問題なのだ。という本音が、出たと云わざるを得ません。

後藤は、そもそも「コンサート」や「資格試験」などは、「県外・海外からの交流人口の増加」には殆ど寄与しないだけでなく、そのレベルのイベントならばグリーンドームなどの既存施設を活用することで十分開催可能であり、新たに大規模な施設を作る必然性は無くなるのではないかということを指摘したところである。

「建設自体が目的」という本音が露わ

別掲のとおり、本計画は巨額の税金を投入するものです。議会の責務として、そもそも「赤字を垂れ流すようなハコものにならないのか?」ということを明らかにしなければ、とてもOKはできません。

リベラル群馬は、8月に本県がモデルにしている新潟県の「朱鷺メッセ」を視察調査。

朱鷺メッセの年間利用者数は当初計画を大幅に下回る約66万人。経営状況は厳しく、県は、4億円以上かかる維持管理費を賄うため約1億円を負担し、コンベンション誘致補助金として約1億円を計上。ざっと毎年2億円の県税を経常的につぎ込んでいます。これに借金の返済などが加わります。

後藤は、このように他県状況が厳しいという情報を正確に県民に知らせるべきであるし、それでもなお群馬県が採算を取れる根拠を県民に明確に示すよう質したところである。

朱鷺メッセは苦戦

採算性の根拠は?

もう一つの重要な論点として、建設の目的は、「大規模な見本市・展示会や国際会議を誘致すること」で、「産業経済の振興、交流人口の増加(県外、海外から)」という政策目的を達成するため」としています。

しかし、統計を見れば全国規模の見本市・展示会の1-2は東京で行われる「一極集中」であり、東京275件に

見本市・展示会の誘致は困難

対してスーパーアリーナを持つ埼玉、朱鷺メッセを持つ新潟ですら「たった1件」という状況です。

群馬県が名乗りを上げたところで、見本市・展示会の誘致など絵に描いた餅だということでは明らかであり、その時点で建設の必要性や規模を根本から見直すのが民間企業なら常識です。

26日の県議会9月定例会前期議会の一般質問。高崎市の高崎競馬場跡地で県が2017年度の利用開始を計画しているコンベンション施設整備をめぐる、後藤克己氏(リベラル群馬)と執行部との議論が白熱した。

後藤氏は自信の調査を基に、新潟県の類似施設「朱鷺メッセ」の収支の厳しさを指摘したり、全国の展示会の開

施設の需要めくり白熱

上毛新聞より抜粋

大型ハコもの計画に対し責任あるチェックと対策提示 9月定例会議 本会議質問登壇